

巨匠ムスティラフ・ロストロポーヴィチに「世界で最も優れた若手ヴァイオリニスト」と認められ、世界的に名だたる音楽家と競演を重ねる木嶋真優。今回の小児がん征圧キャンペーン「生きる～2027 若い命を支えるコンサート」は、世界が称賛する国際派ソリスト木嶋真優が出演！“炎のコバケン”の愛称で親しまれる日本を代表する指揮者 小林研一郎の指揮による神奈川フィルハーモニー管弦楽団との豪華共演にご期待ください。

小林 研一郎 (指揮)

Kenichiro Kobayashi (Conductor)

“炎のコバケン”の愛称で親しまれる日本を代表する指揮者。東京藝術大学作曲科、及び指揮科の両科を卒業。1974年 第1回ブタペスト国際指揮者コンクール第一位、及び特別賞を受賞。2002年 プラハの春音楽祭では東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮して万雷の拍手を浴びた。

これまでにハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、アーネム・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、フランス国立放送フィル、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、ロンドン・フィル、ハンガリー放送響、N響、読響、日本フィル、都響等の名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。

作曲家としても数多くの作品を書き、1999年に日本・オランダ交流400年記念の委嘱作品、管弦楽曲『パッサカリア』を作曲、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章等、国内では旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。2005年 社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動が続いている。CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』(日本図書協会選定図書)等がある。

現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル・名古屋フィル・群響桂冠指揮者、読売日響特別客演指揮者、九響名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授等を務める。

公式ホームページ <https://maestro-kobaken.com/>



©山本倫子

木嶋 真優 (ヴァイオリン)

Mayu Kishima (Violin)

2000年 第8回ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール・ジュニア部門にて日本人として最年少で最高位を受賞。2011年 ケルン国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で優勝、あわせてその優れた音楽的解釈に対しDavid Garrett賞も受賞。2016年に第1回上海アイザック・スターン国際ヴァイオリン・コンクール優勝。

これまでに欧米豪、アジア、日本のオーケストラやデュオ、プレトニョフなど世界で活躍する指揮者と共演を重ね、その演奏は高く評価されている。2012年春にはケルン音楽大学を首席で卒業。2015年秋には同大学院を満場一致の首席で卒業し、ドイツの国家演奏家資格を取得。2016年秋には神戸市より神戸市文化奨励賞を授与された。レコーディングは、ウラディーミル・アシュケナージから強い推薦を受け、「アシュケナージ&NHK交響楽団」の“ツィガーズ”で初録音。最新のCDは2024年8月にキングレコードより「Dear」をリリース。

リサイタル、オーケストラとの共演、室内楽など幅広い活動のほか「情熱大陸」などメディアへの露出も多い。2002年度文化庁海外派遣研修員。使用楽器は、宗次コレクションより特別に貸与されたAntonio Stradivari 1699 “Walner”。



©Kazumi Kurigami

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 *Kanagawa Philharmonic Orchestra*



撮影:藤本史昭

は公益財団法人として認定されている。

横浜・川崎を中心とした定期演奏会や県内各地を回る巡回公演などの主催公演を開催。音楽教育にも積極的で、小中学校での音楽鑑賞教室を全国各地で開催し、広い世代に音楽の魅力を伝えている。また、医療機関や特別支援学校への出張演奏も行っている。指揮者陣には、音楽監督に沼尻竜典、名誉指揮者に現田茂夫、特別客演指揮者に小泉和裕を擁しており、人気・実力ともに益々注目されているオーケストラである。

1970年 神奈川県を本拠地とする唯一のプロ・オーケストラとして発足。地域に密着した音楽文化の創造をミッションとして、神奈川県全域をはじめ、全国各地で幅広い活動が続いている。1978年に一般財団法人、2014年に

生きる

～若い命を支えるコンサート

とは

毎日新聞社は1996年から、小児がんと闘う子供たちを支援するキャンペーン「生きる」を展開しており、様々なイベントやコンサートを通じて、病気への理解と協力を訴えてきました。

2007年度、クラシック・ヨコハマ版 生きるとして誕生したのが「生きる～若い命を支えるコンサート～」で、今回20回を迎えます。このコンサートでは、著名な音楽家に加え、全日本学生音楽コンクール入賞者が参加して、病気と闘う同世代に励ましのメッセージを送っています。

コンサートの進行は僕が務めます
マルタ



テーマ画・イラスト: 宮島永太良